つるせ 公民館だより 第501号

鶴瀬公民館マスコットキャラクター『つるちゃん』

２０２２（令和４）．１１．１
１１月号
編集　つるせ公民館だより編集委員会
発行　鶴瀬公民館 富士見市羽沢3-23-10
Tel 049-251-1140　Fax 049-251-1156

FUJIMI★CITY 2022 50th ★ANNIVERSARY★ 富士見市★市制施行50周年

わがまち点描 132

郁子（ムベ）～七五三の縁起木～

ムベの実

駐車場棟のムベ

ムベはアケビ科。

この木の葉は幼木の時は３枚、ある程度成長してくると５枚になり、実がなる頃には７枚になるので「七五三の縁起木」とも言われるそうだ。

ららぽーと富士見が出来た時、駐車場棟の壁に鋼の網が縦に何本も並んでいた。その地面を見ると一本一本の根本に植物が植えてある。この鋼にツタを這わせて緑のカーテンを作ろうとしているのかしら？

余りにも弱々しい植物で目論見通り上手く行くかなと見守っていた。なんとこの植物の伸びること。毎年毎年ちゃんと上へ上へ。４階の上まで。

ある年、緑の壁になった植物の葉の陰に実がなり始めた。見るとアケビ？でもアケビは落葉樹でみのると実が割れる。この木は常緑。実が割れることもない。とするとムベか。ムベの実は11月に成る。

食べられない種類とのことだが毎年みのる実を自動車の助手席から楽しみに見ている。

ちなみに名の由来は西暦６００年代。近江の長寿の夫婦から差し出された実を食べた天智天皇が「むべなるかな」と言ったからとか。（丸山）

公民館の利用について

★**２月利用分**については、
①抽選のための申込期間　11／15(火)～30(水)
②抽選日（自動抽選）　12／１(木)
③抽選結果の確認期間　12／１(木)～４(日)
④窓口受付開始日　12／５(月) ９：00～
（抽選当選分の本申請と新規受付）
⑤システムによる仮予約受付開始日　12／６(火)
★ホールの一斉受付日
５月利用分　11／7(月) 10：00～

★休館日　11／21（月）
くわしくは職員にお問合せください。

富士見市民大学公開講演会　（無料）

障害者と共に生きる地域づくり

障害者に対する差別や偏見を乗り越えるためには何が必要なのか。長年、健常者と障害者が共に関わる取り組みを実践する講師が解説します。　※手話通訳あり

とき　**12／３(土)**13:30～15:30(開場13:00)
場所　鶴瀬コミュニティセンターホール
対象　市内在住、在勤、在学の方
定員　200名（申込順）
講師　十文字学園女子大学人間生活学部
人間福祉学科教授
佐藤陽（さとうあきら）氏
申込み　11／1(火)から窓口または電話で
(平日9:00～17:00)

つるせ公民館だより掲載の公民館事業等は、新型コロナウイルスの感染状況により、中止または延期する場合があります。くわしくはお問い合わせください。鶴瀬公民館(電話049-251-1140)

子育てサロン

0歳児から就園前の乳幼児とその保護者が対象です。
※37.5度以上の発熱、咳、鼻水の症状のある場合は参加をお控えください。

★親子はーとふるTime(申込不要)
親子で遊べるスペースです。手遊び、紙芝居もします。サポーターママが待っています。０歳児のママもお気軽に。
とき　**11／４・18**(いずれも金曜日)10:30～11:45
場所　いきいき活動室
定員　親子８組程度

★げんきっこTime（申込不要）
親子一緒に手遊び、運動遊び、簡単な工作などをします。
とき　**11／８(火)**10:30～11:30
場所　体育室
内容　紙コップで遊ぼう
対象　１才以上の子どもと保護者
指導　小林礼子さん

★おかあさんのステップアップ講座（要申込）
「抱っこでごきげん(^_^)ベビーダンス♬」
抱っこしたまま音楽にあわせてステップを踏むセラピープログラムです。夜泣きやぐずりもゴキゲンに！
とき　**11／11(金)** 10:00～11:30
場所　和室
対象　首の座った３か月から24か月までの抱っこのできる子どもと保護者
講師　大山かおる氏
（日本ベビーダンス協会インストラクター）
定員　10組（先着順）
申込み　受付中。窓口または電話で（平日9:00～17:00）

★おかあさんのほっとTime（要申込・保育付）
お子さんを預けてちょっと一息、毎日の子育てのいろんな思いをママ同士で話しませんか。サポーターママが司会をします。お気軽にご参加ください。
とき　**11／25(金)** 10:30～12:00
場所　和室
定員　７名（保育も同じ）
申込み　11／4(金)から窓口または電話で（平日9:00～17:00）

高齢者サロン

場所　いきいき活動室

お体に不安のある方、友達のほしい方、お気軽にお越しください。

★ひだまりほっとたいむ（すべて木曜日）
とき　**11／10・17**（すべて13:30～15:00）

★ホッと安心健康相談（無料）
血圧測定や保健師の相談コーナーがあります。
とき　**11／17**（木）13:30～15:00

★いきいきたいむ　（無料）
♪うたごえサロン（すべて火曜日、13:30～15:00）
とき　**11／１・８・15**
定員　17名
♪おしゃべりサロン（すべて水曜日、13:30～15:30）
とき　**11／２・９・16・30**

健康スマイル講座　（無料）

～イムス富士見総合病院の専門家に学ぶ～

とき　**11／24（木）** 10:00～12:00
場所　いきいき活動室
内容　薬についての知識
講師　イムス富士見総合病院薬剤師
定員　20名（先着順）
申込み　受付中。窓口または電話で（平日9:00～17:00）

♪コミセンホール通信♪

◆ハートフルライヴ（無料）
フルート、エレクトーン、ピアノ演奏とコーラスのコラボレーションをお楽しみください。
とき　**11／27(日)** 13:30開演(13:00開場)
出演　音楽ボランティアしゃぼん玉、
ヴォーカルグループ加藤企画

◆神定れい子コンサート(無料)
とき　**11／30(水)** 14:00開演(13:30開場)

編集委員雑感

「信用」って大事だなと思うことがよくあります。まだ信用のない人との会話はどうしても疲れるし、正論だと思うことを言っても、相手が自分のことを信用していないと全く伝わりません。

でも私たちの社会は、基本的には他人を信用することで成立しているなとも思います。少なくないお店が外に商品を並べているのも、多くの人が高価な車を外にとめておけるのも、「人はこれを傷つけない・盗まない」と信用しているからです。

もしも全ての人が悪人であると疑うなら、この社会はもっと防犯にコストをかける形になっていると思います。

何だかんだ言っても、私たちは人を信用して生きているし、おかげで低いコストで生きられる。

そんなことをぼんやりと思いました。（上杉）

鶴瀬のほうき作りを知っていますか？

今ではほとんどの家庭で使われなくなった座敷ぼうきですが、かつて、鶴瀬地域はほうきが一大産業だったのをご存じでしょうか？今回は、この地域のほうき作りの歴史と、その誇るべき伝統を後世に伝える活動を紹介します。

ほうきの種類

ホウキモロコシ（ほうき草）を材料とするほうきの種類は以下のとおりです。

【座敷ぼうき】家の中を掃く。長柄ぼうき（柄が長い）と手ぼうき（柄が短い）がある。

【荒神（こうじん）ぼうき】カマドやイロリの灰などを掃くための小型ほうき

【カバーぼうき】編まないで作る。並べたホウキモロコシにカバーをかけ、その上からプレス機でホチキス止めをする。

長柄ぼうき

荒神ぼうき

手ぼうき

カバーぼうき

ほうき職人

座敷ぼうきを作る職人になるには、親方の下で３年間の修業が必要でした。１日で長柄ぼうきなら10～12本、手ぼうきなら20本作れれば一人前の職人と言われました。独立時には、親方からナタや小刀などの道具が贈られました。

ホウキモロコシ

座敷ぼうきの材料　ホウキモロコシとは

ホウキモロコシはイネ科の一年草。種をまき70日前後で穂が出て茎とともに収穫します。収穫後、種を取り除き、茎の部分に日を当てて干し、穂の部分の緑色を残します。国内の作付面積は昭和40年（1965）に最大となった以降は減少し、現在ほとんど作付けされていません。

富士見市のほうき産業の歴史

入間東部地区では、江戸時代から昭和30年代（1955-64）まで座敷ぼうき作りがさかんでした。その中心は旧大井村（現ふじみ野市）でしたが、富士見市域もさかんでした。

生産量がわかる最も古い資料（大正９年-1920-）によると、旧鶴瀬村では６戸18人がほうきを生産し、87,000本を東京方面や関西方面に出荷していました。これは旧大井村のおよそ半数です。その後は、世界恐慌や戦時中のホウキモロコシ栽培禁止などにより、停滞しましたが、戦後に再びさかんになります。

昭和36年（1961）の富士見市域のホウキモロコシの作付面積は104ヘクタールで、県内最大でした。また、ほうき産業従事者が多く、全国座敷箒組合連合会の会員数もふじみ野市域に次ぐ人数でした。昭和46年春には同会の要職を長年務めた旧鶴瀬村の榊原幸蔵氏が勲五等瑞宝章（くんごとうずいほうしょう）を受章しています。

昭和40年代になると、電気掃除機の普及により、ほうき産業は危機の時代を迎えます。ほうき屋は新たに「カバーぼうき」を考案し、人件費の安い海外での生産も始めました。

元ほうき職人 浦野幸吉（こうきち）さん（羽沢３丁目在住）

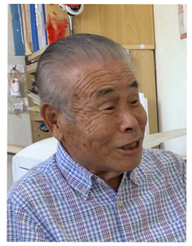
今回、ほうき作りの技術を受け継いでおり、「ほうき作り伝承会」で指導をされている浦野さんにお話を伺いました。

浦野さんは昭和28年（１９５３）、中学卒業後、親方の下で修業を始め、修業後、親方の下で働いてから独立しました。

「私はほうき作りもしましたが、輸入貿易に力を入れていました。70年代当時、プロペラ機で台湾、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナムと海外を飛び回っていました。楽しかったですね。特に台湾が日本語も通じたし一番良かったです」

浦野さんは昭和45年（１９７０）頃、インドネシアでホウキモロコシの契約栽培を始め、翌年からは現地生産もしました。温暖な気候で年に３回収穫でき、昭和50年（１９７５）頃、最盛期の作付面積は約３００ヘクタール、ほうきの年間輸入量は15万本でした。浦野さんは日本と行き来し、自社での製造に加え、ホームセンターなど新たな販売開拓に努めたということです。

また50年前から、皇居の年末のすす払い用のほうきを製作しています。現在も皇居に献上するほうき作りに取り組んでいます。



浦野幸吉さん

お話を伺って

■昭和30～40年代、富士見市は盛んな座敷ぼうきの生産をほこり、のどかな農村地帯だけではなかった富士見市の一面を初めて知りました。地域の花形産業であり、台湾、インドネシアなどアジア各地まで生産拠点が作られていたことに、驚きました。

東入間地域はホウキモロコシの大産地で、所沢あたりまで真っ青なホウキモロコシ畑が続いていたというお話は、当時の光景が浮かぶようで印象的でした。（本多）

■私の住むまちにも昔はほうき職人が点々といたことに驚きました。ほうき作りのまちではなくなったことは寂しく感じますが、伝承してくれることに感謝したいと思った一日でした。（新井）

■お話を伺っている間、目がキラキラと輝いていました。85歳になった今も、チャレンジ精神を持っている方だなと思いました。（村川）

皇居に献上するほうきを作る浦野さん。竹でできた柄の長さは4.5m

ほうき作り伝承会とは・・・

座敷ぼうきの技能と文化を伝承するために設立しました。材料のホウキモロコシを栽培し、先発組が浦野さんから技能を学び、他の会員に技を伝えます。おもに難波田城公園の古民家で活動しています。ふじみ野市のほうき作り友の会との連携や、小学校でミニほうき作りの指導も行っています。座敷ぼうき作り、一緒にしませんか。

活動日：月２回　第２・第４土曜日
会員数：10名（募集中！）
会費：年1，000円＋材料費
連絡先：小森和雄（090-6104-3844）

11月13日（日）14:30～15:30、中央図書館で行われる「図書館まつり」において、ほうき作りの実演があります。この機会にぜひご覧ください！

参考文献：難波田城資料館『平成28年春季企画展　ほうきと竹かごー自然素材の生活用具ー』

写真提供・取材協力：富士見市立難波田城資料館